

小学校低学年からの英語リテラシー学習 : 英語が読める3年生を目指して

著者	藤原 真知子
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.27
号	No.2
ページ	29-32
発行年	2018-03
URL	http://doi.org/10.15052/00003386

小学校低学年からの英語リテラシー学習 -英語が読める3年生を目指して-

藤原 真知子

はじめに

コミュニケーションの手段として英語を読んだり書いたりすることは、インターネットの普及もあって、ますます重要になっている。ホームステイ先とのメールのやり取りが、外国の方々との最初のコミュニケーションとなることも少なくない。

新学習指導要領では、2020年度より小学校中学年に外国語活動が、高学年には教科化された外国語が導入され、それぞれ週1時間、2時間が配当されることとなった。教科化された外国語と外国語活動の大きな違いは、「聞くこと」「話すこと」に、「読むこと」「書くこと」が加わったことである（文部科学省、2017）。

筆者の勤務する聖学院小学校では、従来より1年生から週2時間の英語の授業の中で、これら4技能の学習に取り組んでいる。段階を追って適切な形で「読むこと」や「書くこと」を導入することにより、バランスの取れた英語力が身につく。

低学年から文字学習を取り入れる理由

小学校低学年での文字指導は、英語嫌いを生むとして回避されることもある。しかし、低学年から文字学習を取り入れるのには、次のような積極的な理由もある。

- ・日本語の文字と全くちがうので、早く始めたほうが、ゆっくり楽しく学習できる。
- ・アルファベットへの親しみがあると、英語の学習が進めやすい。
- ・日本の児童にとってアルファベットをマスターすることには大きな達成感がある。
- ・アルファベットはリーディング・ライティングの基礎である。
- ・書く時間を持つことで、バランスのよいレッスンになる。
- ・書くことで、学習した内容が確認でき、英語が

よりよく身につく。

- ・低学年から書く習慣がついていると、その先もおっくうにならずに書くことに取り組める。
- ・文字が読める・書けることで、自律学習へとつながる。

文字の導入から楽しい読み・書き学習へ

以下では、聖学院小学校1～3学年のクラスにおいて、文字指導から「読むこと」「書くこと」へと広がるリテラシー学習が具体的にどのように進められているかを紹介する。

1年生

1年生の児童は時間をかけてゆっくりと、いろいろなアプローチで楽しく文字に親しむ。

▶まずはABCソングでABCの順番を覚える

文字を指で追いつながりながらABCソングを頻繁に歌う。歌でABCの順番や形を覚えたら、A-B-C...、a-b-c... の点 (dot) を順番につなぐと絵になる“Dots to Dots”や、アルファベットの1つの文字を絵の一部に使った独自の絵を描き、文字を楽しむ。

アルファベットチャートはいつでも見られるように教室に貼っておくとよい。

▶カードを使用したアルファベット学習

大文字カード (ABC...) を順番に並べる。／小文字カード (abc...) を順番に並べる。／大文字・小文字のカードをマッチさせる (A-a)。／カルタにして、聞いた文字をとらせる。／文字の縦半分・横半分・一部を見せて何の文字か当てさせる。

▶徹底したアルファベット文字指導

アルファベットが言えるようになったら、点線で書かれた文字をなぞる練習をする。

次に4線上に正確に書けるようにする。その際

には、書き順もしっかりと教える。幅の広い4線ノートから始め、徐々に幅の狭いノートを使う。

大文字は、第3線（基本線／太い線）の上に書き、第1線に届くようにする。すべての文字が同じ大きさであることを強調する。

小文字は、大きさ・位置がまちまちなので習得に時間がかかる。1回に多くの文字を教えるのではなく、2～3文字ずつ、丁寧に指導したい。

小文字は、文字の大きさによってグループに分けられる。基本線と第2線の間に書く小さい文字(a c e m n o r s u v w x z)、基本線から、第1線と第2線の間までを使う文字(i t)、大文字と同じ高さの文字(b d f h k l)、基本線の下に出る文字(g j p q y)の4つのグループがある。

添削は、しっかりする。正確に書けていない場合は、直して再提出させることを徹底する。正確に書けたら、褒めることで次回のモチベーションにつながる。早くきれいに文字が書けるよう練習を続ける。

▶アルファベットの音読みと文字への慣れ

アルファベットの音読み（おとよ）みを始める。

例) A /æ/ apple

アルファベットの音読みは、[a（ア）、b（ブツ）、C（ク）、D（ドゥ）...]と続くことから、アブクド読みとも呼ばれる。アブクド読みには、楽しい動画も多くあるので、ぜひ使用したい。

1年生は、教科書 *My English Land* の英語（あいさつ、好きな食べ物、色、家族、体の部位、動物、形、洋服など）は教師と一緒に指差して読み、文字に馴染むようにする。ワークシートを使って、学習した単語を4線の上に書く練習もする。

2年生

2年生では、サイトワードを学習する。サイトワード（sight word）とは、頻出する基本重要単語で、これらが読めることで、本などが読みやすくなる。¹フォニックス学習（後述）のようなルー

ルはないので、そのまま覚える。

2語のサイトワードを用いた小さい絵本を暗唱し、読みへとつなげる。年間25冊、50のサイトワードを学ぶことになる。

よく読めたら、次の本がもらえることになっている。児童は音声を聞いて、積極的に練習し、新しい絵本をもらうことをとても楽しみにしている。クラスでは、ほぼ児童全員が皆の前で読みを発表したがる。読めた本にはスタンプがもらえる。スタンプを集めるのも楽しみのものである。1年間何度も繰り返し同じ本を読むので、サイトワードが自然と身につく。

次の絵本の例では、いろいろな動物が言っている言葉が書かれている。like と to がサイトワードに当たる。

例)

I like to climb.

I like to run.

I like to swim.

I like to hop.

I like to hang.

I like to blow.

I like to glow.

(Scholastic Inc., 2003)

学習した文章はノートに丁寧に書写する。

例)

I like to play.

I like to sing.

などのように、自分のことを述べたり、書いたりするのに応用できる。その際、最後の応用部分は単語でなく、絵で表してもよいことにして、書くことへの興味を持たせるようにする。

文章は大文字で始まり、単語と単語の間は1文字分スペースを空け、最後にピリオドをつけることを何度も繰り返し伝える。

3年生

3年生では、パターンの繰り返しで構成されているストーリーを16篇学習する。新単語をスクリーンを使ったフラッシュカードでリズムよく学習し、音声を聞いて文章を読み、本文に関する問題に答える。次に皆の前で読みを発表する機会を与える。2年生同様、皆の前での発表は3年生にも大変人気がある。読めたストーリーにはスタンプがもらえる。

例)

Mouse sees a car. The car is fast.
Mouse sees a bus. The bus is fast.
Mouse sees a train. The train is fast.
Mouse sees a city. The city is busy.

(Janzen & Weintraub, 2006)

このパターン学習も、言葉を入れ替えることにより、自分の文章を作ることができ、作文力へと導くことができる。

例)

Mouse sees a dog. The dog is fast.

▶フォニックスで読む力、書く力をつける

フォニックス指導は、英語を十分に聞くことに慣れた3年生から本格的に始める。アルファベットの音読みはできているので、短母音と子音の組み合わせは導入しやすい。ライミングワード(同じrhymeを持つ単語)の徹底指導をし、読む力、書く力をつける。

例)

a+n=an __an : can/ man/ pan
a+t=at __at : cat/ hat/ mat
e+n=en __en : hen/ pen/ ten
e+d=ed __ed : bed/ red/ Ted

i+n=in __in : fin/ pin/ win
o+p=op __op : hop/ top/ pop
u+n=un __un : run/ bun/ fun

その他の文字学習

▶ワードサーチパズルで英単語を探す力を身につける

ワードサーチパズルでは、一見ばらばらに配置されたアルファベットの中から英単語を探し出す。簡単なものから始め、徐々にレベルアップする。

1年生:学習した簡単な単語のパズル(縦・横のみ)

2年生:学習した長い単語も含むパズル(縦・横・斜め)

3年生:大文字から小文字を探す/小文字から大文字を探すパズルも加える(縦・横・斜め)

最初は皆で協力して探す。慣れてきたらヒントのみ(down / across / diagonally) 与え自分で探させる。何度も行ううちに、文字に慣れ、驚くほど早く単語が探せるようになる。この練習は、読み書き学習に大変役に立っている。

▶歌を通した学習で読む力をアップ

児童は何度同じ歌を歌っても飽きない。2・3年生では歌集 *26 Fun Songs to Sing, Act, and Read* を使って26曲の歌を学習する。2年生では歌詞を指で追って歌い、3年生では歌詞を読みながら歌うことで、リーディング力が確実に身につく。

▶クリル学習の仕上げにミニブックを作成する

聖学院小学校では各学年で、他教科の内容を授業に取り入れてCLIL(Content and Language Integrated Learning; 内容言語統合型学習)に取り組んでいる。

1年生では、朝顔の栽培、2年生では、大豆の栽培、3年生ではチョウの一生や日かげとひなたなど、いずれも自分の観察をもとに自分の本作りをする。1年生では、単語のみであるが、2・3年生では、手本を見て、観察の文章をていねいに

書く。これに自分の絵や言葉も加えると、貴重な観察本ができる。保護者やゲストの前で発表する機会を設けると、自信になる。

おわりに

以上、聖学院小学校の低学年で行われている英語リテラシー学習の実際を紹介してきた。表1には、1年生から3年生までの児童が取り組む読み書き学習の目標を学年別に示している。既に述べたように、文字が読める・書けるようになることは、英語学習活動の幅を大きく広げ、児童を自律学習へと導く第一歩となる。

低学年と高学年では発達段階も異なるが、ここで紹介した一事例が、公立小学校の外国語に加わることとなった「読むこと」と「書くこと」の活動のヒントになることを願っている。

注

1 よく知られるドルチ (Dolch) サイトワードでは、Pre-K (40語), Kindergarten (52語) など、段階に応じて知っておくべきサイトワードリストがある。

引用文献

- 文部科学省 (2017) 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック基本編 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_1.pdf
(2018年1月4日取得)
- Scholastic Inc. (2003). *Sight word readers*. New York: Scholastic Inc.
- Janzen, A. & Weintraub, H. (2006). *Super easy reading 1*. Tokyo: Compass Publishing.

参考文献

- Byrd, B, Fujiwara, M, & Aiba, C. (2007). Introducing reading and writing in the lower grades of elementary school: From ABC to writing books about me. In K. Bradford-Watts (Ed.), *JALT2006 Conference Proceedings*. Tokyo: JALT.

(ふじわら・まちこ 聖学院大学総合研究所特任講師)

表1 聖学院小学校1・2・3年生読み書きの目標

	読む	書く
1年生	アルファベットの大文字・小文字の、アルファベット読みと音読み (アブクド読み) ができる。 簡単な単語が先生と一緒に読める。	アルファベットの大文字・小文字・自分の名前が4線の上に書ける。 簡単な単語を4線の上に写せる。
2年生	同じパターンのセンテンスが読める。 サイトワードが50語程度読める。 よく歌う歌の歌詞を指で追える。	短い文章を正確に写せる。 手本を見て自分のことが書ける。
3年生	短いセンテンスを読み、内容にあった正しい文章を選べる。 3文字程度の単語 (短母音+子音) が70語程度読める。(フォニックスの例参照) よく歌う歌の歌詞が読める。	やや長い文章でも正確に写せる。 文章の一部を入れ替えて、自分のことを書くことができる。 簡単な3文字単語を書くことができる。(フォニックスの例参照)